

講義名	基礎心理学（2年生以上）		
科目区分	教養一般		
担当教員	蜂屋 真		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

まず、心理学の研究对象、研究法、研究領域について講義する。次いで、心理学に研究对象である心と行動に深く関わる臓器、脳について講義する。さらに、知覚、学習、知能、発達のような知見について講義する。最後に、社会心理学の集団と帰属について講義する。

到達目標

心研究法、脳、知覚、学習、知能、発達、社会行動など、心理学の基礎的項目を理解している。

提出課題

授業の進行に従って、学生諸君に様々なレポートを書かせる。それを授業に反映し、活用する予定である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業中に書かせたレポートに対して、随時コメントを行う。

評価の基準

何度かレポートを書かせるが、これをもって理解度試験とし、期末試験の結果と合わせて成績を評価する。成績の点数配分は、理解度試験（30%）、期末試験（70%）である。

履修にあたっての注意・助言他

授業は板書を中心に行われ、ノートを取ることが必要である。試験問題はノートから出題される。授業中出席チェックをかねたレポート作成を求めるが、これを申告なしにランダムに行う。従って、授業を欠席していると、単位取得が難しくなる。なお、認定心理士の取得をめざす諸君は、この科目を必ず履修しなければならない。教科書は心理学概論の教科書と同一である。

教科書			
.心理学要論	福田由紀編	培風館	2100円

プリント資料及び参考文献

関連資料は授業中に配布する。

授業計画

1. 心理学とは：心理学の研究对象、心理学の考え方、研究領域（2章）
2. 行動の生理学的基礎（1）：大脳皮質の機能局在、大脳半球の反対側支配（3章）
3. 行動の生理学的基礎（2）：言語野、失語症、言語の臨界期（3章）
4. 知覚（1）：錯視・錯視の体験（4章）
5. 知覚（2）：形の知覚、図と地、まよりの法則、幾何学的錯視、月の錯視（4章）
6. 知覚（3）：空間知覚、運動知覚（4章）
7. 学習（1）：オペラント条件づけ、シェイピング、強化スケジュール（5章）
8. 学習（2）：チャンバンジーの言語行動・解読（12章）
9. 知能（1）：知能テストの実施・採点・解説（12章）
10. 知能（2）：知能の定義、知能テストの仕組み、知能の決定要因（12章）
11. 発達（1）：患者の発達、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期（11章）
12. 発達（2）：社会性の発達、愛着・道徳性・仲間関係の発達
13. 社会（1）：集団とは、社会的促進、社会的手抜き、同調（9章）
14. 社会（2）：帰属とは、原因・成功失敗・情動の帰属（9章）
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業内容は、授業計画に付された教科書各章に対応する。1回の授業につき、予習として授業内容に対応する教科書の箇所を読んでおくこと（2時間）、復習として教科書を活用し、さらに関連書籍を学習すること（2時間）が求められる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考